

6 番三田地久志でございます。通告に基づきまして質問をいたします。3 期目の任期最後の質問となりますので、趣意汲み取りいただき明確な答弁をお願い致します。

岩泉町未来づくりプラン後期基本計画について

令和 6 年第 4 回定例会の一般質問に引き続き、岩泉町未来づくりプラン後期基本計画の重点プロジェクト 3～5 について伺います。

さて、2 月 6 日の町長施政方針においては、細部にわたり町長の思いが具体的に記載されていると感じたところです。

まずは、重点プロジェクト 3 の『関係人口の拡大』について伺います。コロナで交流ができなかったとはいえ目標値に向かって進んでいるのか伺います。

プロジェクト 3-1「移住・定住のきめ細かな相談窓口の開設」について、移住・定住コーディネーターを育成し、相談窓口を強化するとともに、就業や起業するための支援や経済的負担の軽減に向けた取組を進める。とありますが、どの程度進んでいますでしょうか。

プロジェクト 3-2「町出身の若者など本町に関心がある人との交流促進」について、本町と友好都市である昭島市や岩泉町ふるさと会などとの交流、移住や定住に関心がある人に対する情報提供を図り、本町への観光や自然体験などの来訪を通じ、移住や定住につなげる取組を進める。関係人口の創出・拡大のために、関係人口創出・拡大事業の活用を検討するとともに、二地域居住の促進、空き家の活用、お試し居住プログラム、大学生のインターンシップや地域おこし協力隊制度の活用などの取組を強化する。

また、廃校施設については、サテライトオフィスや研究施設など、様々な分野を融合したりノベーションについて調査・研究を進める。とありますが、それぞれの到達度はどのくらいになりますでしょうか。

プロジェクト 3-3「魅力ある観光拠点づくり」について、龍泉洞をさらに魅力ある観光拠点として整備を行うとともに、地域に埋もれている潜在的な観光資源の掘り起こし、ジオパーク等の観光資源を活用した広域観光連携を行い、体験型観光やインバウンド観光の展開を図るための情報発信や地域のブランディング化を進める。また、ふれあいらんど岩泉の再整備を進める。とあります。こちらの進捗はどのような

になっていますでしょうか。

次に、重点プロジェクト4『産業の強化による働く環境の充実』について伺います。

プロジェクト4-1「安定かつ持続ある生産体制の構築」では、農林水産業の生産組織の育成と強化を図り、産業の競争力を高めるとともに、創業・事業承継を通じて地域産業の活性化と新陳代謝を図る。未来技術の活用に関する調査研究を進め、生産の効率化や担い手不足の解消等、既存産業が持続安定できる仕組みづくりに取り組む。とありますがこれについての進捗度合いを伺います。

プロジェクト4-2「第三セクターを基盤とした地域産業の振興」では、地域経済を牽引する第三セクターについて、成長発展及びホールディングス化によるシナジー効果を高めるための支援策を重点的に実施する。経営課題解決に必要な人材育成と、マッチングを行うための支援や、生産から加工、販売までを行う6次産業化の推進や新商品開発などに対する取組を強化する。とありますが到達度を伺います。

プロジェクト4-3「各産業分野における担い手の育成」について、インターンシップ等を通じた若年層の地域での生

活・就業体験を促進し、地域企業へのU I ターン就職の機会拡大と地元定着を推進するとともに、岩泉高等学校において人材教育として推進している探求型学習プロジェクト（K I Z U K I プロジェクト）などへの支援に取り組む。また、各産業分野における人材育成を推進することにより、仕事に関する理解を深め職場への定着を促進する。とありますが、進捗具合を伺います。

最後に、重点プロジェクト5『持続する集落形成』について伺います。

プロジェクト5-1「地域振興協議会を核とした活動支援」について、地域振興協議会が地域運営組織として機能するように支援し、住民が主体的に活動できる環境を整え、生活サービス機能の集約・確保、防災機能の強化、集落生活圏内外との交通ネットワークを形成し、利便性の高い地域づくりを進めるとあります。到達度はいかがか伺います。

プロジェクト 5-2「高齢化に対応した移動手段確保などの生活支援」について、地域の公共交通の維持や利用者の利便性の向上を図るため、運賃の軽減策を進めるとともに、事業者との連携・協働を推進し、地域の特性に応じたデマンド

交通の構築を進め、利用しやすい公共交通の確保に努めるとありますが、進捗具合を伺います。

プロジェクト5-3「地域防災の環境整備」について、地域の防災体制の確立・強化を目指すとともに、災害に関する自助・近助・共助の重要性などの啓発や、必要な情報・知識の啓発や防災備蓄の充実などにより住民の防災・減災意識の高揚と安全安心な地域づくりに努める。とありますが進捗具合について伺います。

プロジェクト5-4「地域包括ケアシステムの推進」について、高齢者一人ひとりの課題に対する支援が充実するよう、地域ぐるみで高齢者を見守り、支えていく体制づくりを進めるとともに、身近な地域における生活支援体制の整備や強化により安心して生活できる環境を整備する。とありますが進捗状況を伺います。

以上で本席からの質問を終わります。

6 番 三田地 久志 議員の御質問にお答えします。

はじめに、未来づくりプラン重点プロジェクト3の関係人口の拡大についてであります。「移住・定住のきめ細かな相談窓口の開設」につきましては、令和元年度から町内事業者に移住コーディネーター業務を委託し、移住希望者及び移住者へのフォローを行ってまいりました。

本町では、地域おこし協力隊制度の活用を開始した平成29年度から、これまでに43名の隊員の皆様に着任いただいております。移住コーディネーターによるきめ細かな対応が成果に表れているものと捉えております。

起業や、町内で新規事業を目指す方への支援策といたしましては、令和7年度において中小企業振興資金融資に新たに「開業資金枠」を設けますほか、国の支援制度である「ローカル10,000プロジェクト」の活用を予定しているところであります。

次に、「本町に関心がある人との交流促進」につきましては、令和元年度から地域おこし協力隊着任希望者を対象に、2泊3日の町内居住体験を提供しており、さらに

県内外の大学生を対象に4泊5日の「キャリアデザインプログラム」を実施し、若い世代に本町を深く知っていただくための機会を提供しております。

廃校施設の利活用につきましては、旧大川中学校を活用した通信制高校の設立など、廃校活用に向けて現在進行中のプロジェクトが複数ありますので、引き続き活用が図られるよう取り組んでまいります。

二地域居住の促進及び空き家の活用につきましては、令和7年度に町内の空き家実態調査を実施予定であり、この調査結果を踏まえ、空き家を活用した二地域居住の促進についても調査・研究を進めてまいります。

次に、「魅力ある観光拠点づくり」についてであります
が、まず、ふれあいらんど岩泉につきましては、本年度「DBO方式」と呼ばれる公共が資金調達した上で、設計・建設・運営・維持管理を包括的に民間事業者に委託する方式で再整備を進めており、令和6年7月には、受注事業者が運営を担う新会社を設立し、本年4月の開業に向け準備を進めているところであります。

龍泉洞の観光拠点整備につきましては、現在、ナイトドラゴンブルーや、冬の地底湖にスポットを当てた洞内

観光の魅力度アップと情報発信、そして園地内での体験型コンテンツの拡大など、ソフト面の充実に努めており、今後、町観光協会の体制強化も図りながら、新たな魅力創出による誘客の拡大に努めてまいります。

これまでの課題である、冬期間の誘客対策につきましては、本年2月に開催し、好評を博しました「龍泉洞冬まつり」を継続して実施し、地域のブランディング化が図られるよう、町内事業者や広域的な連携のもと、誘客を強化してまいります。

観光資源の掘り起こしにつきましては、龍泉洞園地内での魚のつかみどりの定期開催や、畑わさびの花芽摘み体験など、町観光協会や事業者と連携しながら、別な視点による新たな資源開発つなげる取組を進めてまいります。

インバウンドの誘客につきましては、集客が期待される台湾を主軸に検討しており、近隣の市町村とも連携しながら、龍泉洞の魅力発信に努めてまいります。

次に、プロジェクト4の産業の強化による働く環境の充実についてであります、「安定かつ持続ある生産体制

の構築」につきましては、農林水産業の生産基盤を強化するため、各種生産組織、団体、事業者等への生産や運営経費について支援を行い、生産等の維持、拡大を促進してまいりました。

また、担い手の確保や事業継承、起業などについても、県や団体などと連携し、事業者の相談に応じながら、サポートを充実させてきたところであり、成果として、農業分野で3名、林業分野で9名の新規就業に結びついております。

農業においては、畑わさびの収穫量が、猛暑の影響により減少しているものの、定植時期の工夫などを施しながら、増産に向け取り組んでおり、また日本短角種については、放牧頭数を維持できている状況にあります。

林業では、森林環境譲与税を有効に活用した、高性能林業機械の導入により、効率的な施業が行われているほか、再造林についても適地選定が進められております。

水産業では、海洋環境の変化により厳しい経営が続いておりますが、漁場環境を整備するため、サケの稚魚放流、アワビ・ナマコの種苗放流を継続しており、淡水魚増殖事業による資源確保についても、継続して実施して

いるところであります。

次に、「第三セクターを基盤とした地域産業の振興」についてであります。第三セクターの成長とホールディングス化によるシナジー効果を高めるため、各社相互に協力しながら、業績拡大の機会創出を図るとともに、グループ内での効率的な人材配置を行い、経営資源の最適化に努めてまいりました。

また、6次産業化の推進、新商品開発にも積極的に取り組んでおり、畑わさびを使用した万能調味料の開発や、新設したスイーツ部門での季節商品の開発・販売など、常に新しい展開を模索し、実行に移しているところであります。

今後におきましても、グループ全体の協力体制をさらに強化し、各社の強みを生かした新たな事業機会を創出してまいります。

次に、「各産業分野における担い手の育成」につきましては、これまで大学生のインターンシップを始め、岩泉高等学校の「K I Z U K I プロジェクト」への支援を通じて、町の各産業分野を知っていただき、就業体験の機

会を提供してまいりました。

引き続き、若い世代の方々に対して、町の産業に対する理解を深めていただく機会を提供するとともに、地元に着定していただくため、より効果的な施策を検討してまいります。

次に、重点プロジェクト5の持続する集落形成についてであります。

まず、「地域振興協議会を核とした活動支援」についてであります。地域振興協議会は、健康づくり活動などを通じた地域の見守りや、自主防災組織との連携及び協働事業の実施、二次交通の運行による交通ネットワークの形成など、多岐にわたる地域活動を展開しております。

これらの活動は、町民の皆様が、自ら選択し実践しているものでありますので、町民の皆様が主体的に活動していく環境は整備されているものと認識しております。

今後におきましても、町民の皆様が自主的に行う地域づくり活動への支援を継続するとともに、地域の活力を維持・向上させる取組を充実してまいります。

次に、「高齢化に対応した移動手段確保などの生活支援」についてありますが、令和4年度から安家地区において、デマンドタクシーの実証運行を行ってまいりましたが、7年度からは本格運行に切り替え、他の地域での実証実験も新たに開始する予定としております。

今後におきましても、ライドシェアなど様々な制度を調査研究し、町民の皆様のニーズと利用実態に則した、新しい公共交通の在り方を追求してまいります。

次に、「地域防災の環境整備」につきましては、町地域防災計画に基づき、地域の防災力を強化するため、各地区自主防災協議会との定期的な意見交換や、町防災士連絡協議会と共催した実践的な研修会の開催のほか、各種防災訓練を通じて、地域や個々の防災力の強化に努めているところであります。

また、防災に関する情報や知識の啓発につきましては、広報紙での特集、ぴーちゃんねっとでの防災クイズ、学びの出前講座などを行っており、幅広い年代の皆様に防災意識が浸透してきているものと認識しております。

防災備蓄につきましては、町防災備蓄計画に基づいた食料や生活用品の目標数量を確保済みではありますが、

各家庭での備えに対する意識啓発にも引き続き取り組んでまいりたいと考えております。

最後に、「地域包括ケアシステムの推進」についてありますが、第9期介護保険事業計画の基本理念である、「相互に支え合いながら安心していきいきと暮らせる地域づくり」に基づき、様々な事業に取り組んでおります。

介護予防や、生活支援などの活動に注力してきたことにより、地域支え合い活動・いきいき百歳体操の実施団体は着実に増加しており、さらに各地区での介護予防教室の開催、認知症カフェ実施団体への支援なども行っております。

また、認知症の方やその家族のニーズを把握し、早い段階から生活面への支援を行うとともに、認知症サポーターの育成を進め、医療・介護・福祉団体等と連携し、本人やその家族を支援する「チームオレンジ」を令和7年度に立ち上げるべく取り組んでいるところであります。

高齢者のニーズや課題の把握につきましては、地域ケア会議において情報交換、課題に対する検討などを行うとともに、地域資源の発掘や新たな担い手の育成などに

取り組んでおります。

更には、社会福祉関係機関との連携を強化し、高齢者に限らず、複合的な課題を抱えた方々への、寄り添った相談支援の充実に取り組んでいるところであります。

今後におきましても、地域課題を多角的に捉えつつ地域間交流の輪を広げることで、一人ひとりが孤立することなく、安心して楽しく暮らすことができる地域社会の形成に取り組んでまいります。

未来づくりプランにおける重点プロジェクトは、本町のさらなる発展を目指し、令和8年度を目標年度として集中的に進めているものであります。

複数の分野にまたがる総合的な施策として推進しておりますことから、実施過程では様々な課題に直面することもあります。一つひとつ課題に向き合いながら、プロジェクトの達成に向けて着実に取り組んでまいります。

以上で答弁を終わります。